

第1学年1組 算数科学習指導案

1 単元 のこりは いくつ ちがいは いくつ

2 指導観

- 本学級の子どもたちは、10までの数について、具体物を使い、分類したり、数えたり、まとめて数えたりする活動を通して理解を深めてきた。さらに、半具体物を用いて、数の構成（合成や分解）を学習することで、2つの数を合わせて1つの数とみる見方や、1つの数を2つに分けてみる見方を学び、数の意味の理解を深めてきた。また、「あわせて いくつ ふえると いくつ」の学習では、加法の意味と式について学習し、計算の仕方について学んできた。そこで、生活の中で何度も経験している減少場面を「ひき算」として意識づけることができるようになるこの期に、本単元を取り上げる。そして、文章（ことば）と操作との関連を図りながら、減法の意味を理解できるようにする。このことは、数学的活動に取り組みながら、計算の意味や計算の仕方を考え、日常生活に生かそうとする学ぶ意欲をもち、確かな学力を身につけた子どもを育てる上で意義深い。
- 本単元では、減法が用いられる場面や減法について理解し、それを式で表したり式を読んだりすることをねらいとしている。子どもにとって、本単元が減法との初めての出会いである。そのために、身近な事象から減少や求差の場面を取り上げ、具体物や半具体物を用いた活動を通して、数量が減るということを理解させる。また、ひき算の意味を具体的な操作によって、捉えることができるようにする。この学習は、加法と減法の組み合わせによる3口の計算や繰り下がりのある減法の学習へと展開していく。
- 本単元の指導にあたっては、まず、お話をしながらブロックなどを操作させ、減法のもととなる数量が減るという意識を捉えることができるようにする。次に、いろいろな求残や求差の場面を式に表したり、ことばや動作で表現したりすることによって、減法の意味を理解することができるようにする。さらに、減法の式に見合うお話づくりを取り組ませ、様々な数量と動きのある挿絵を見ながら、減法の用いられる場面をことばで表現できるようにする。
尚、本時指導にあたっては、求差の場面における減法の意味を理解し、式の表し方や答えのかき方を理解できるようにする。その際、「ちがい」を求められていることや、どんな操作をすればよいか分からない児童がいると予想される。そのために、説明段階でブロックを操作させながら、1対1対応をさせ、求差の場面での減法の意味を理解させる。また、理解深化段階では、挿絵をもとにお話づくりをさせ、求差の場面でも減法が用いられることについての理解を深めさせる。

3 目標

- 身の回りから求残や求補、求差の場面を見つけ、ことばで表したり、減法を用いて解決したりしようとする態度を育てる。
- 絵や図に表したり、ブロックを操作したりしながら、求残や求補、求差の場面を減法として考えることができるようにする。
- 求残や求補、求差の場面について、減法の意味を理解し、「－」「＝」の記号を用いて式に表し、被減数が10以下の減法の計算ができるようにする。

4 本単元の学習活動（全10時間）





- 1 挿絵を見て、求残の場面でのお話づくりをする。—————（1）
- 2 求残の場面、求補の場面で、減法の意味を捉え、式の表し方を考え、計算する。—————（4）
- 3 0を含む減法の意味を知り、計算する。—————（1）
- 4 求差の場面で、減法の意味を捉え、式の表し方を考え、計算する。—————（2）（本時1/2）
- 5 求残や求補、求差を総合的に捉えたお話づくりをする。—————（2）

5 本時 平成30年6月21日(木) 第5校時 於第1学年1組教室

6 主眼

- 求差の場面でも減法が用いられることを知り、式の表し方や答えのかき方を理解することができる。

7 本時の学習活動 (7/10)

段階	学 習 活 動	具体的な手立て ※評価
説明	<p>1 予習から、本時のめあてをつかむ。</p> <p>「なんびき おおい」の けいさんが できるように なるう。</p> <p>○ 予習で習得した学習内容を確認し、問題場面をブロックで表す。</p>  <p>$8 - 5 = 3$ こたえ 3びきおおい</p> <p>○ 求差の場面でも減法が用いられることを知り、式の表し方や答えのかき方を理解する。</p> <p>「なんびき おおい」のときも ひきざんを する。</p>	<p>【予習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 問われていることに下線を引く。 ○ 「きいろはぎ」と「かくれくまのみ」の数量を見つける。 <p>【困難度査定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「ちがひ」を求められていることや、どんな操作をすればよいか分からない児童がいると予想される。 ○ ブロックを操作させながら、求差の場面も減法でできることに気付かせる。
理解確認	<p>2 習得した考えをつかって練習問題を解き、解き方を確認し合う。</p> <p>【確認問題】</p> <p>① いちごは、みかんより なんこ おおいですか。 $9 - 4 = 5$ こたえ 5こ</p>  <p>② ふうとうは、しいるより なんまい すくないですか。 $7 - 6 = 1$ こたえ 1まい</p>  <p>○ それぞれの問題の求め方をペアで説明し合い、全体で考えを確認し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 式をかく際には、少ない数を求めるときも多い数から少ない数をひくことを確認し、計算できるようにする。 ○ 線で結び、1対1対応させたり、ブロックに置き換えたりさせて、立式することができるようにする。 <p>※ 求差の場面でも減法が用いられることを知り、立式の仕方を理解することができる。</p>
理解深化	<p>3 思考を深める問題を解き、考えを交流し合う。</p> <p>【深化問題】</p> <p>$7 - 4 = 3$の しきに なる、 おはなしを つくり、ぶろっくを うごかして みましょう。</p>  <p>○ 解くための方法や答え方をペアで話し合っ、自力解決する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「きつねは、7ひきです。たぬきは、4ひきです。きつねは、たぬきより 3びき おおいです。」 ・「たぬきは、4ひきです。きつねは、7ひきです。たぬきは、きつねより 3びき すくないです。」 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「○○は、○○より」という減法を立式するためのことばをもとに、お話づくりをさせる。
自己評価	<p>4 本時を振り返り、「分かったこと・分からなかったこと」を明らかにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時学習で、「分かったこと・分からなかったこと」を振り返る。 ○ 次時の予習内容を知る。 <p>【次時の予習】</p> <p>ばすが 8だい、とらつくが 6だい とまっています。 どちらが なんだい おおいですか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ めあての横に、本時の学習の理解度を、◎・○・△で記入させ、本時の学習を振り返らせる。 ○ 次時の予習問題を読み、次時の見通しをもたせる。